

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902488		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	旭川市神楽4条1丁目2番4号		
自己評価作成日	令和元年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902488-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が楽しく穏やかに過ごせるよう一人一人が役割を持ち家事やごみ捨て、庭の草取りなどを行っていただいたり、毎月の外出レクリエーションのほか各自の趣味や希望を取り入れた個別レクリエーションにも力を入れています。天候の良い日には広場で系列グループホームと合同のラジオ体操や散歩、パークゴルフなどを行い、入居者様同士や職員、地域の方とも交流をしています。誕生会やひだまり祭りにはご家族にも参加頂き一緒に楽しいひと時を過ごしていただいています。日々の様子や出来事を書いて一日日記や写真を載せた通信、受診記録などホームでの生活全般が分かるように毎月ご家族に送っています。今年はお祭りやレクリエーション等の様子を動画に撮り、ホームページにもアップしていく予定です。今年7月に開設した『ひだまりサロン』で月3回クラブ活動のように3棟の希望者が集いカラオケや百人一首などを行い、楽しんでいます。来年度は地域の方も介護予防運動などにサロンを活用して頂く予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR旭川駅から約1kmと市内中心部に近い閑静な住宅街に位置し、周辺にはホームセンターやスーパー、公民館、図書館等、文化施設や行政施設が揃っている生活環境に恵まれた地にある。木造平屋建て2ユニットのグループホームで、隣接して同法人が運営する「グループホームひだまり」があり、行事や全体会議などを合同で行ったり、夏季には毎朝事業所の広い敷地で、3ユニット一緒にラジオ体操やリズム体操を行い、利用者同士馴染みの関係を作ることが出来、職員も事例を共有して質の高いケアに努めている。ラジオ体操には地域住民も参加して交流し、事業所主催の「ひだまり祭り」にも多くの地域住民や家族・利用者が参加し交流している。本年7月に完成した系列ホーム別棟の「ひだまりサロン」では、カラオケや百人一首などをして地域住民と交流している。利用者が動物園やふるさと人形展等に出かけるなどして、気分転換を図れるよう支援している。家族の意見や要望等を運営に反映させるため、利用者一人ひとりの一日の特徴のある言葉や行動等を「一日一日日記」にまとめ、一日日記や日々の様子、写真を載せた通信を毎月発行して家族に送付し、情報提供すると共に来訪時やひだまり祭りの開催時等に家族から意見や要望等を聞く機会を設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『メイクハピネス』を理念に入居者一人一人が楽しく活き活きと生活できる場を提供するため職員全員で話し合い入居者のやりたいことへの支援に努めています。	玄関に入った正面に事業所理念「メイクハピネス」(「介護より快護」入居者様の幸せが、家族の幸せであり、私達の幸せです。)が掲げられ、掲示板には支援のサービス目標としている五つの『あい』が記載された事業所の概要が貼られ、職員は共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひだまり祭りや屋外ラジオ体操に参加して頂いたり、散歩時地域の方と挨拶や会話をするなど交流している。ひだまりサロン開設で来年度は地域の方の介護予防運動やカフェなども予定しています。	毎年8月には隣接の事業所と合同で「ひだまり祭り」を開催し、町内会・家族等が参加している。夏期には日課のラジオ体操に地域住民が参加するなど地域とは円滑なつきあいと交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学校の生徒が福祉ボランティア体験で施設に訪れ入居者と関わる経験をしたり、今後は認知症カフェも計画しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームで行っているレクリエーションや日常の様子を動画などで見て頂いたり、新たな取り組みなどについて報告し、委員の方々から意見を頂き、サービス向上に活かしている。	年6回開催予定し、既に3回(6・8・9月)実施している。市職員、町内会長、民生委員、家族、看護師等が参加し、運営状況、行事報告等を行い、意見や助言を得てサービス向上に繋げている。別棟で7月末に竣工した「ひだまりサロン」について、プロジェクターによる動画で説明し好評を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も参加しており、グループホームの取り組みなどについて意見交換をしている。加算や変更手続きなど分からないことは指導監督課に連絡し、色々教えていただいている。	市の担当者とは、運営推進会議の出席、介護や福祉に関する各種手続き、情報の提供等を通じ意見交換や指導・助言を得るなど密接に連携を図っている。また、「ひだまりサロン」の活用について市と連携を図る予定である。	本年7月末に出来た別棟の「ひだまりサロン」を、地域との交流を含めた場として、更なる活用を期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の開催と全職員に向けた定期的な勉強会で理解を深め利用者の行動制限を行わないケアを行っている。ただし、日勤職員出勤前の散歩は待つて頂くことがある。	身体拘束委員会を定期的に開催し、内部研修で介護20か条を指針に理解を深めて、身体拘束をしないケアに努めている。また、玄関には身体拘束の指定基準リーフレットが掲げられ、誰でも閲覧できるよう配慮している。玄関の施錠については防犯上夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で認識、理解を高め、言動等利用者にとって不快な思いをさせないよう全職員で虐待防止に努めている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用している方、活用を考えている方はいませんが、研修等に参加し学びたいと思います。日常生活自立支援事業も共用型デイを通して関わられる部分は支援したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、理解して頂いている。分からないことがあった場合はその都度説明対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や通信を通してご意見、感想を頂きたい旨伝えている。面会時や運営推進会議出席時に職員とご家族が話す機会を設け、感想など伺い運営に反映させている。入居者とも行きたい場所や生活への要望等お聴きし、希望に添えるよう話し合っている。	家族に「ひだまり通信」等により行事や誕生会など日々の暮らしの様子を伝え、意見や要望のきっかけに繋げている。また、来訪時や日常の会話の中で利用者や家族の意見等を聞き運営に役立てている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個人面談や普段の話し合いの場で出た職員の意見、提案を週1回の管理者会議、月1回のミーティングで反映できるよう話し合っている。	毎月のミーティング時、親睦会等では管理者と職員の意見交換の機会を設けている。また、管理者と職員のコミュニケーションを図るため食事会等を行い、話しやすい雰囲気の中で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。年1回春に個人面接を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自年間目標を立て、年度末には目標達成と評価シートを基に面談し、給与、賞与に反映させている。職員親睦の為、年2回の交流会や外出レク時の食事代補助、健康管理の為マッサージ代補助を行い、勤務も無理な出勤、残業が無いよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップに向けた研修会への参加やどのようにケア、対応をしているのか職員間で話し合い、情報共有しながらトレーニングしている。今年度、2名が介護福祉士に合格し、これで常勤職員全員が介護福祉士となりました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や各自介護職員同士の交流会などに参加するなど、ネットワークづくりや情報交換でサービスの質向上に役立っている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定時にケアマネや家族から本人の状況・情報を収集し、ご本人が困っていることや希望などを職員に話しやすいような雰囲気作り、環境作りなどにも心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の不安や要望などお聴きし、こちらで出来ること、出来ないことを説明しながら要望に応えられるよう話し合うことで関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族の現状の問題などを聞き取りしたうえで支援内容を確認し、出来ること、やりたいことなど必要な支援は何かを話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分は必要とされていると感じて頂けるよう家事を含め出来る範囲でいろいろなことを職員と一緒に行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りやお誕生会にご家族にも参加して頂き楽しいひと時を過ごしたり、1行日記や面会時にご本人の様子を報告するなど来所しやすい環境づくりに努めている。また、家族との外出をケアプランに入れることもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人希望で自宅や畑を見に行き、ご近所の方と話をしたり、兄弟・親戚・友人・知人がホームに遊びに来ることもある。	8月に開催の「ひだまり祭り」には、家族や孫・友人や近所の方など大勢の人が集まり、テントの中では焼き鳥・飲み物等が振る舞われ、これまで付き合いのあった馴染みの友人等と関係が途切れないよう工夫を凝らしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ラジオ体操、レクリエーション、掃除や調理など一緒に行うことでお互いに協力し合い良い関係づくりが出来ている。また、ユニット間の垣根を超えて利用者同士の交流を設けている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後方向性を確認し、必要な時には他のサービスにつなげたり、相談を受けたり必要な支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望や意向を直接お聴きしたり、普段の会話や行動から本人の思いを推し量り、支援、対応ができるよう努めている。散歩や外出など個別対応も行っている。	日常の会話・仕草、家族の情報から個々の思いや意向の把握に努めている。希望に添ってカラオケ大会等も行い、時にはパチンコに同行する時もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、他サービスなどから情報を収集し、職員で情報の共有ができるよう本人の生活歴にまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の表情や様子、バイタルチェックなどから体調、精神状態などを把握し、記録や申し送りなどで職員間の情報共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、プラン更新時、変更が必要な時は本人、家族に意向をお聴きし、ミーティングで全職員と話し合い介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、利用者・家族の意向を反映させて全職員で話し合い、6か月毎に介護計画を作成している。状況に変化があればその都度、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動やいつもと違う様子、新しい気づきなど介護記録やメモに記入し、職員間の申し送りで共有したり、目につく場所に張ったメモを見ながら対応している。実践の結果を話し合い介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別レクや外出等本人の希望や意向を汲み取り一人一人が楽しめるよう柔軟な対応を行っている。(手紙を出しに行きたい。パチンコに行きたい。海に行くなど)また、サロンでクラブ活動の取り組みを始めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とラジオ体操をしながらの会話、、近所の庭の桜を見せて頂いたり、堤防の散歩やパークゴルフ場、スーパー、図書館など地域資源を活用している。2か月に1回訪問理美容も利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療と皮膚科、眼科など個別の受診はその都度付き添い支援している。本人、家族の希望で以前からの病院受診を継続されている方もいます。緊急時は病院と連携し対応している。	利用者や家族からこれまでの受診状況を把握し、希望に添った医療機関を受診できるように支援している。また、月1回の訪問診療や協力医の受診では職員が同行する等支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を報告し、必要な時には看護師が病院と連携し処置したり、職員に処置や対応方法を伝えてくれています。看護資格を持つ職員が増えたことによりきめ細かな支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟看護師に本人の普段の生活、精神状態また、施設での対応の仕方など伝えるなど情報交換をしている。早期退院に向け、家族や病院関係者に連絡、相談も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してはホームの状況、出来ること、出来ないことなど家族に説明し、病院との連携も考慮し検討する。実際終末期になった場合、家族の思いも変わるのでその都度話し合い調整していく。	入居時に利用者と家族に、指針に基づき説明して同意を得ている。現在重度化の利用者はいないが、高齢者が多いため万が一に備え、終末期に向けた病院との連携を視野に入れながら、事業所で出来る支援等に理解を得ながら方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えマニュアルを作成し、その時々で対応について話し合っているが、ここ数年応急手当、救命講習は行っていないため、今後行っていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回、水害時の訓練、話し合いも年2回行っている。災害時の備蓄品も徐々に揃え、運営推進会議で災害時対応について話し合っている。	消防署立会いで昼・夜を想定した火災避難訓練を年2回実施している。地震・水害等の避難計画については、最近作成しマニュアルなどは完備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった言葉かけや対応を職員間で話し合い、否定や命令をしないよう気を付けている。一人一人の尊厳を大切に穏やかに過ごして頂けるよう配慮している。	会議で話し合い、プロジェクターを使い映像等を通して言葉遣いや態度等を客観的に見ながら学び、プライバシーや尊厳を損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動、様子を見ながら思いをくみ取り、選択肢を提示するなど自己決定しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、入浴、日常の過ごし方など本人の希望やペースに沿って体調も考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡と各自のヘアブラシを置き、自ら整容出来るようにしたり、また本人が洋服を選びやすいようタンスの整理や買い物で好きな洋服を購入できるよう支援している。誕生日にはお化粧をして喜んで頂いている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳下膳、後片付けなど出来る方には行って頂いている。利用者と一緒に月1回の昼食作りやおやつ作りなど楽しみながら行っている。	利用者の能力に応じ、食事の盛り付け、配膳・下膳、後片付けなど役割分担をして職員と一緒にやっている。利用者と職員が同じ食卓を囲み、1人ひとり咀嚼の早さが違うので、その人に合った自由な食事で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは医師の指示のもと塩分制限をしたり過食に気を付けるなど支援し、水分もむせ込みのある方にはとろみをつけたり、飲みたいときに飲んで頂けるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、舌ブラシを使用している方もいる。希望のある方は定期的な訪問歯科をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間誘導を行ったり、下衣の上げ下げ、パットの装着など出来ることは行って頂き、出来ない部分を支援している。おむつ使用の方も希望がある時にはトイレで排泄して頂いている。	排泄パターンを記録して、表情や態度に気を付けながら時間毎に声かけ誘導を行う等、出来るだけトイレでの自立排泄が出来るようさりげなく誘導している。夜間は利用者の体調や状況によりおむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のヨーグルトやオリゴ糖の提供とラジオ体操、水分摂取などで便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回曜日は決めているが、その日の体調や気分、レクリエーションに参加希望などある方は曜日や時間を変更している。本人のペースに合わせた入浴時間や会話を楽しみながらリラックスして入浴して頂いている。	週2回を目安に、利用者の状態に合わせて会話を楽しみながら入浴している。体調により日程や時間の変更もあり、柔軟に対応している。風呂はユニットバスのため浴室内は暖かく、脱衣所横にはトイレが設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状況に応じ休息して頂いている。夜間は安眠できるよう室温や衣類の調整、日中の活動量を増やし穏やかに過ごせるよう支援している。眠れないときには本を読んだり、ホールでTVを見るなど好きに過ごさせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表や個人ファイルで常に確認できるようになっている。変更があった場合は全職員が周知できるよう申し送りや連絡用メモに記載し目につく所に掲示している。薬が変わった場合はその後の状態を看護師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性利用者は家事を楽しみながら行い、男性利用者は買い物など気分転換を兼ねて外出することでそれぞれ自分は役に立っていると感じて頂けるよう支援している。月3回ひだまりサロンで3棟合同レクを実施している。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は毎日屋外でラジオ体操を行い、近所を散歩している。月1回外出レクリエーションを企画したり、買い物やドライブ、外食など家族やボランティアの協力も頂きながら個別も含め支援している。	事業所の周りを散歩したり、近くの郵便ポストまで手紙等の投函に行っている。買い物は店まで少し離れているが同行し支援をしている。10月にはJRで美瑛まで足を伸ばし「青い池」を見るなど電車と車で的外出を楽しんでいる。敷地内にはパークゴルフの出来るスペースが整っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設でしているが、外出時や買い物の際は自分でレジにて支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話や手紙のやり取りの支援をしている。手紙は職員付き添いで本人がポストに投函し、電話は相手方の状況も考慮しながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日の光や室温、風などに配慮し、利用者が心地よく過ごせるよう支援している。窓から外を眺めたり日向ぼっこが出来るよう廊下の途中に椅子を置いている。利用者と一緒に季節ごとの壁飾りを作成し飾ることで季節を感じて頂いている。	居間は吹き抜けで明るく、壁には紅葉の切り絵等が飾られて季節感が漂っている。テレビを囲むように3台のソファがコの字型に配置され、皆で作った清潔感のある配色のキルトカバーが敷かれている。室温も一定に保たれ、共用各所に加湿器を配備して居心地良く快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前のソファやベランダ前廊下の椅子、テラスやパブリックなど一人や他者とで過ごせる場所はある。食事席やソファ以外で利用者同士おしゃべりができる場所を作る予定です。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や仏壇を置いたり、家族の写真や家族から頂いたプレゼントなど飾り家族とのつながりを感じられるように工夫している。	室内ドアには思い思いの飾り付けをした名札が貼られている。使い慣れた整理タンス、小型の仏壇等が置かれ、家族の写真を飾って、自宅と同様、居心地良く暮らせるよう工夫している。乾燥を防ぐために、洗濯物を室内で干すなど健康面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内に手すりや居室ドアに表札を掛け、トイレは大きな字で『トイレ』の文字で分かりやすく自分で移動できるようにしている。配膳・下膳、調理や掃除、洗濯など出来ることはして頂き、自立を目指すよう工夫している。		